

評価委員会総合評価

研究課題名：集中観測等による線状降水帯解明研究

評価委員

委員長：小泉 耕

委員：石井雅男、永戸久喜、牛田信吾、山中吾郎、山田雄二、瀬古 弘、
清野直子、須田一人、干場充之、吉田康弘、加藤輝之、川添安之

評価年月日：令和4年1月31日

1. 総合評価

- (1) 実施の可否 可 否
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

本研究は、線状降水帯の発生や構造の理解と予測の向上にとって極めて重要であり、気象庁業務の発展を通じて、線状降水帯に対する防災・減災への社会的な要請に応えることに繋がる重要な研究である。集中観測に関しては、多くの外部機関と綿密な打ち合わせを行い、線状降水帯の機構解明に資する観測のあり方について検討を行うことで、効果的・効率的な観測網を提案している。また、発生環境場の観測は飛行機観測が実施できない中、大雨をもたらす下層水蒸気の動向を捉えるためには、現状では複数の船舶による観測も含めたベストな実施体制だと考える。機構解明・予測精度向上については、本庁数値予報課と連携するとともに、これまで実績のある富岳を利用したモデル開発も行うことになっており、予測精度向上に資する研究成果の創出が期待される。さらに、今回の計画のように、気象研究所が中心となり、多数の機関との協力の下、日本の英知を集める形で研究を遂行することは、気象研究所の社会的貢献を示す上でまたとない機会である。研究体制についても、ほぼオール気象研（地震火山関係を除く）で取り組むことになっており十分であると考えます。

一方、2年間という短期間での実施となることから、具体的なゴールを設定し、着実に研究を進めて頂きたい。

なお、研究の実施にあたっては、以下の点について留意して進めて欲しい。

- ・令和4年度に必ずしも意図した観測データがとれないこともありえるので、令和5年度以降も観測を継続できるとよい。
- ・集中観測において効果的なデータを効率的に取得し、研究に最大限活用できるよう、本研究担当者及び本庁等との連携、課題間の連携をお願いする。
- ・内部構造の観測を用いた線状降水帯の機構解明では、1年間の事例だけの解析では十分に進めることはできないので、継続的な研究への発展や線状降水帯事例のデータベース構築につなげることが必要不可欠である。